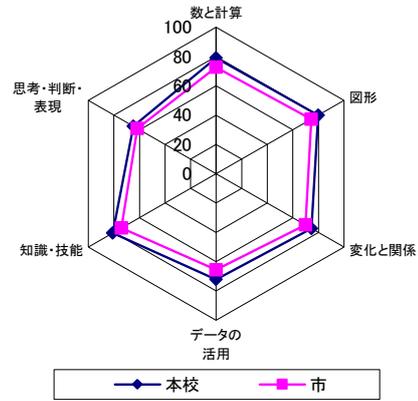


# 宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	72.6	71.6
	図形	79.8	74.4	72.0
	変化と関係	74.6	69.8	62.6
	データの活用	72.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	80.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	64.8	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「分数の除法の文章問題にあった図を選ぶことができる」では75.7%であり、市の正答率を11.6ポイント上回っている。</p> <p>○「真分数+真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる」では92.2%であり、市の正答率を12.1ポイント上回っている。</p> <p>●「面積が一定の平行四辺形の底辺と高さの関係を表した式を選ぶことができる」では73.9%であり、市の正答率を0.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形の面積の求め方を確認する。</li> <li>伴って変わる2つの数量関係を文字を用いて立式できるようにし、さらに問題に合った式に変形できるように支援していく。</li> </ul>
図形	<p>○「台形の面積を求めることができる」では87.0%で、市の正答率を11.5ポイント上回っている。</p> <p>○「合同な三角形の作図の方法を理解している」では84.3%で、市の正答率を7.3ポイント上回っている。</p> <p>●「直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる」では81.7%で、市の正答率を1.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱や円柱の体積の求め方を確認する。</li> <li>直方体を組み合わせた形の体積を求める際には、自分の考えに合った補助線をかき入れ、必要な部分の長さを明確にさせる。</li> </ul>
変化と関係	<p>○「道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶことができる」では93.0%で、市の正答率を8.3ポイント上回っている。</p> <p>○「図から面積と人数を割合を求め、どのシートが最も混んでいるかを考察できる」では82.6%で、市の正答率を4.6ポイント上回っている。</p> <p>●「同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいか判断することができる」では、市の正答率を上回っているが、本校の正答率は45.2%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>速さや単位量あたりの大きさの意味について確認する。</li> <li>問題場面の情報を整理して捉えるとともに、速さと時間・きよりの関係について、図や数直線などを用いて考えられるようにしていく。</li> <li>自分の考えを順序立てて説明できるよう支援していく。</li> </ul>
データの活用	<p>○「最頻値について理解している」では71.3%で、市の正答率を18.5ポイント上回っている。</p> <p>○「度数分布表について理解している」では92.2%で、市の正答率を5.6ポイント上回っている。</p> <p>●「もとにする量の大きさが違うとき割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを、具体的に説明することができる」では、市の平均正答率を超えているが、正答率が40%を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円グラフを読み取る際には、割合だけでなく基にする量に着目することを確認する。さらに、割合の大小だけでは、比べられる量の比較はできないことを実際の数値を用いて考えさせる。</li> <li>社会などの他教科でもデータの読み方を扱っていく。</li> </ul>